

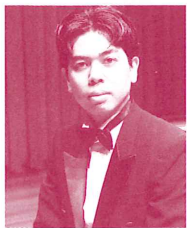
Profile たかしま ゆは
高嶋 優羽 (ソプラノ) *Yuha Takashima, soprano*

西宮市出身。兵庫県立宝塚北高等学校演劇科を経て、大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、同大学専攻科声楽専攻修了。2012年度より1年間ロームミュージックファンデーション在外研究生としてニューヨークにて研鑽。在米中、ヒューストン大学テキサス・ミュージックフェスティバル“Le Chiavi Bel Canto”に参加。また、ニューヨーク・リリック・オペラ・シアター公演において「ボッペアの戴冠」フォルトゥーナ役で出演。国内ではこれまでに「後宮からの逃走」ブロンデ、「魔笛」パミーナ、夜の女王、「フィガロの結婚」スザンナ、「フィデリオ」マルツェリーネ、「リゴレット」ジルダ、「こうもり」アデーレ等を演じ、関西二期会地方招聘公演「ナクソス島のアリアドネ」ではナヤデ役で新国立劇場に出演すると同時にツェルピネッタ役のアンダースタディを務める。また、「第九」「メサイヤ」、モーツァルト「戴冠式ミサ」、「レクイエム」等のソリストを務める他、NHK-FM「名曲リサイタル」、NHK-BS「クラシック倶楽部」等のメディアへの出演も重ねている。渡邊弓子、服部容子、Ted Taylor、Susan Versage各氏に師事。関西二期会準会員、関西歌曲研究会、西宮音楽協会各会員。フェリーチェ音楽院及び国際楽器社声楽講師。



Profile やまはた まこと
山畑 誠 (ピアノ) *Makoto Yamahata, piano*

兵庫県立西宮高等学校音楽科を経て、東京芸術大学を卒業。その後、ワイマール・リスト音楽大学大学院修了、ドレスデン国立音楽大学大学院修了（国家演奏家資格試験合格）、スイスにてチューリッヒ音楽大学大学院修了。第3回スペイン音楽国際ピアノコンクール第3位、第19回ポルト国際ピアノコンクール第4位、多数の国際ピアノコンクールでファイナリストとなり、ピアノトリオで参加した第3回ミネルピオ国際室内楽コンクールにて第1位となる。ソロ、室内楽、歌曲伴奏、オーケストラとの共演などや、ラジオ、テレビ番組の出演など、さまざまな演奏活動をおこなってきている。帰国後、神戸女学院大学音楽学部、兵庫県立西宮高等学校音楽科にて後進の指導もおこない、平成26年4月より大阪教育大学芸術専攻音楽コースの准教授となる。平成22年度神戸市文化奨励賞受賞。



ナレーター おおおか みさ
大岡 美佐 *Misa Ooka*

大阪音楽大学卒業。関西二期会準会員、関西歌曲研究会会員、The TARO Singers メンバー。

ワンコイン・コンサート No.1アーティスト 2012
 アンコール・リサイタル



たかしま ゆは
高嶋 優羽 ソプラノ・リサイタル

Program

J.S. バッハ : カンタータ第51番「全地よ、神にむかいて歓呼せよ」BWV51
 I. アリア「歓呼せよ」
 II. レチタティーヴォ「神のいましたまう神殿に祈らん」
 III. アリア「至高者よ、汝の善を朝ごとに新たにし給え」
 IV. コラル「父と子と精霊をほめ讃えよ」
 V. アリア「アレルヤ」

ヘンデル : 「ジュリアス・シーザー」より“優しい眼差しよ”

モーツァルト : 憐れな私よ、どこにいるの？
 ～ああ、語っているのは私ではない K.369

: 「魔笛」より
 “復讐の炎は地獄のように我が心に燃え”

休 憩

ドビュッシー : 若き日の四つの歌

- I. パントマイム (P.ヴェルレーヌ)
- II. 月の光 (P.ヴェルレーヌ)
- III. ピエロ (T.バンヴィル)
- IV. 現れ (S.マラルメ)

ドニゼッティ : 「連隊の娘」より“こうして決まってしまったのね～フランス万歳！”

トマ : 「ハムレット」より
 “遊びの仲間に入れてください”〔狂乱の場〕

バーンスタイン : 「キャンディード」より“華やかに着飾って”



2014年 4月16日(水) 2:00PM

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター



春爛漫の今日、地元である西宮の兵庫県立芸術文化センターで、リサイタルをさせていただきますことを、心より嬉しく思います。

ここでのリサイタルは私にとって、センター開館以来、抱いていた目標でした。

本日は、ソプラノのための素敵な作品を、たくさん詰め込んだプログラムに致しました。2012年のコンサートにご来場・ご支持下さった皆様、そして、今日お運び下さいました皆様に感謝を込めて、精一杯務めさせていただきます。

2014年4月 高嶋 優羽



J.S.バッハ：カンタータ第51番「全地よ、神にむかいて歓呼せよ」BWV51

1730年初演。数あるバッハのカンタータの中で、ソプラノ独唱のために書かれた代表作。本来はトランペット独奏、弦楽、通奏低音と共に演奏される。

ヘンデル：「ジュリアス・シーザー」より“優しい眼差しよ”

1724年、ロンドン初演。紀元47年にエジプト遠征した際のジュリアス・シーザーとクレオパトラの物語。第2幕、シーザーの前でクレオパトラは徳の女神に扮し、官能的に誘惑する。

モーツァルト：憐れな私よ、どこにいるの？～ああ、語っているのは私ではないK.369

1781年初演。コンサートアリアとして、選帝侯カール・テオドルの愛人の一人、パウムガルデン伯爵夫人のために作曲された。歌詞は、メタスタジオの悲劇「エツィオ」第3幕第12場より、18世紀にたびたび使用されたものを用いている。フルヴィアの恋人エツィオは、猜疑心の強い皇帝によって殺され、さらに彼女の父親であるマッシモはエツィオ殺害の不当な罪を着せられる。フラヴィアが怒りと絶望のあまり歌うシェーナとアリア。

※この公演の録音・録画・撮影および、そのための機材の会場への持ち込みは固く禁られています。
※音や警報音の鳴る機器（補聴器・アラーム付き時計等）をお持ちの方は、上演中音が鳴らないようご注意ください。
※客席内では携帯電話は使用できませんので、電源をお切りください。
※演奏中の会話、客席内での飲食はご遠慮ください。

モーツァルト：「魔笛」より“復讐の炎は地獄のように我が心に燃え”

1791年、ウィーン初演。架空の時代のエジプトが舞台とされる。夜の女王は、ザラストロに権力のみならず、娘パミーナをも奪われる。復讐に燃える夜の女王は、パミーナに短剣を渡し、「ザラストロを殺さなければ、おまえは永遠に私の娘ではなくなるのだ!」と迫る。母親の激しい怒りが、ハイFの最高音を用いたコロラトゥーラによって描き出されている。

ドビュッシー：若き日の四つの歌

1881-1884年に作曲された4つの歌曲は、ドビュッシーが強く関心を寄せていた同時代の詩人による作品に作曲されたものであり、特にヴェルレーヌに関しては、早くから彼の作風に魅了され、ドビュッシーは彼の詩に音楽をつけた最初の人物となった。この頃書かれた30曲の歌曲は、ドビュッシーが18歳の時に出会ったマリー＝ブランシュ・ヴァニエ夫人に捧げたもので、彼女の声域に合わせて非常に高音域での歌唱が求められる作品となっている。

ドニゼッティ：「連隊の娘」より“こうして決まってしまったのね～フランス万歳!”

1839年、パリ初演。舞台はスイスのチロル地方の山中。戦争孤児であるマリーは、軍曹シュルピスに拾われ、フランス軍隊第21連隊の中で、兵士たち皆から自分の娘のように可愛がれ、育てられた。第2幕夫人の館。好きでもない人と無理やり結婚させられるマリーは、恋人トニオそして連隊での生活を懐かしんでいると、兵士たちが彼女を救い出そうと乗り込んでくる。

トマ：「ハムレット」より“遊びの仲間に入れてください”〔狂乱の場〕

1868年、パリ初演。原作は有名なウィリアム・シェイクスピアの同名戯曲。舞台はデンマークのエルシノール城。第4幕。オフィーリアは愛するハムレットの自分への無関心な態度に、絶望してしまい、ついには正気を失い、小川に身を投げてしまう。

バーンスタイン：「キャンディード」より“華やかに着飾って”

1956年、ブロードウェイ初演。18世紀に活躍したフランスの思想家ヴォルテールの『キャンディード或は楽天主義説』が原作で、楽天主義の哲学や生きることの意味などが語られる。この作品は、オペラ、ミュージカル、音楽劇として上演されており、バーンスタイン自身、ジャンルを超えた、様々な要素の集まった作品と語っている。第1幕、パリ。戦場で殺されたはずのクネゴンデは、高級娼婦となり、金持ちのユダヤ人と大司教、それぞれの安息日に会う生活を送っている。そんな生活を嘆きながらも、高価なドレスや輝く宝石を目の前にして、笑いが止まらない。

(プログラム・ノート：高嶋 優羽)